



さとやま

今月の見どころ

春の気配

今年の1月は何度も大きな寒波が襲来し、例年になく寒い日が何度かありました。そんな寒さの中でも、生き物たちは春の訪れを予感し、着々と準備を進めています。



アカガエルの卵塊

マンサク (赤花)

マンサク (黄花)

2月頃には、水場では雨が降ると、まずアカガエルが、少し遅れてヒキガエルが産卵を始めます。

また、里のあちこちで冬から咲くスイセンに混じって、早春の花たちも咲き始めます。中央広場ではマンサクの花がリボンのような花弁を広げます。マンサクは本来黄色ですが、里では赤花の品種のものが多くようです。ハンノキ広場では、風媒花のカワラハンノキの雄花の集まりが伸びて花粉を飛ばします。同じ風媒花のスギの花も見られます。

さらに、センター前のサンシュユや、トンボの里のヒサカキ、万灯山エリアのアオキなど、3月頃咲く花たちの花芽が膨らみ始めるのを見つけることもできます。暖かい日があれば、成虫で越冬するルリタテハや、前回ご紹介した気の早い花たちには、駐車場近くの巣箱からやってきたセイヨウミツバチの姿を見ることもできます。こんな「小さい春」を探しに、里を散策してみましょう。



ヒキガエルの卵塊

スイセン

スギ

サンシュユ

ヒサカキ

アオキ

ルリタテハ

セイヨウミツバチ

里の生き物紹介

カワラハンノキ

2月になると、ハンノキ広場のカワラハンノキの花が咲きます。



カワラハンノキは、谷川などの水辺に生える、カバノキ科の落葉小高木です。

花といっても、普通にイメージする花とは違います。長く垂れ下がっているのが雄花の集まり（雄花序）、その手前に上を向いて ついているのが雌花の集まり（雌花序）です。

雄花序は枝先に2～5個ついて、成熟すると花粉をつけた葯が出て黄緑色に見えます。手を触れると、黄色い花粉が煙のように飛び出します。雄花序に袋をかぶせて叩くと、花粉を集めることができます。



雌花序は赤色状で、雄花序と同じ枝先の別な茎に1～5個つきます。松かさ状の鱗片から雌しべを出して、これに風で飛ばされた花粉がついて受粉します。

雄花序は花粉を出し切ると根元から落ちてしまい、3～4月には新葉が芽吹きます。



7月頃



果穂

花芽

9月頃

その後雌花序は成長を続け、7月頃には大きな果穂に成長しています。

一方9月頃には、新しい枝先に翌春の花芽ができます。晩秋には果穂は黒く色付き、鱗片が開いて種子が飛び出し、葉が落ちると、果穂や花芽がよく目立つようになります。



12月頃



ハンノキ



雌花序

雄花序

ハンノキ広場には、同じカバノキ科のハンノキもあります。花期はカワラハンノキと同じ頃ですが、高木なので手の届かない高い枝の上に花をつけます。写真では、昨年の果穂が残っています。カワラハンノキでも果穂が落ちずに残っているのをよく見かけます。

また、万灯山エリアにあるオオバヤシャブシもカバノキ科です。林の中にあるため、花は日が当たる高い梢につきます。花期が3~4月頃ですが、この頃山道を歩くと足元に写真のように雄花序がたくさん落ちているのを見つけることができます。

ハンノキやカワラハンノキと違って、雄花序は柄がなく、昨年の葉がついていたところから1つづつついて、雌花序が枝先側につきます。雌花序の鱗片が大きくて、つくりがよくわかります。秋には、カワラハンノキによく似た少し大きめの実がなります。これらの実はリースにしたり、草木染に使うことができます。



雌花序

雄花序



こうした風媒花は、まだ昆虫の少ないこの時期でも関係なく花をつけることができます。

1月の行事紹介



講座「お花炭を焼いてみよう」に山口信夫氏を講師に迎えて17日(日)に開催しました。

お花炭とは、「飾り炭」とも呼ばれ、優雅で上品なものとして珍重されてきました。木の実や葉っぱなど素材をそのままの形で炭化させてつくる炭の一種です。素材はとても脆くて壊れやすく、同じ缶の中に入れるため、できる限り水分量が似ているものを選ぶと、失敗が少ないと聞きました。

里山で集めてきたものを空き缶に入れて火にかけ、缶の隙間から煙が出ます。やがて少なくなって、缶も冷めたので蓋を開けて見ると、火が弱かったのか生焼けもありましたが、竹の器に飾ると、とてもオシャレな花炭アートが完成です！ぜひ、次回もチャレンジしたいです。

2月の行事予定

7日(日)	里山で野鳥を観察しよう	20名	AM9:00~11:30	高田 俊洋
-------	-------------	-----	--------------	-------

◎内 容 ~ 里山の小草池周辺で、冬の渡り鳥をメインに詳しく観察します。

20日(土)	竹炭焼きⅠ(竹きり・竹割り)	30名	AM9:30~11:30	神本 晃・河野俊治
21日(日)	竹炭焼きⅡ(火入れ)	30名	AM8:30~11:30	神本 晃・河野俊治
28日(日)	竹炭焼きⅢ(窯出し)	30名	AM9:30~11:30	神本 晃・河野俊治

◎内 容 ~ 里山で竹を切り、割って窯入れ、火入れ後に加減調整し、最後に窯出しする。

- ◆ 竹炭焼きの3回は、継続しての参加を基本とします。[相談可]
- ◆ 参加受付は、各講座の3週間前の午前8時30分から先着順で来園及び電話にて受付します。また、申込は本人、もしくはその家族までとします。
- ◆ 天候や少数(6名以下)などによる講座の中止、又は受講内容を変更する場合があります。
- ◆ 原則、参加費は無料ですが材料費などは実費を申し受けます。
- ◆ コロナ禍の状況により講座を「中止」する場合があります。

西尾いきものふれあいの里

- ◆ ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266
- ◆ 休 日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始[12/28~1/4]
- ◆ 発 行 西尾市環境部 環境保全課